

【調査概要】カネミ油症に係る健康実態調査について

1. 調査の目的

- (1) これまでにカネミ油症検診(※1)(以下「油症検診」という)を受診された方やカネミ油の喫食歴を県に届け出た方等のうち認定されていない方(以下「未認定者」という)の所在を確認しカネミ油症検診の受診を勧奨する。
- (2) 自覚症状を訴える未認定者が多数存在することが油症検診の中でも認められているが、改めて今回の調査で状況を確認する。

2. 調査の概要

昭和43年にカネミ油食中毒事件(※2)が発生した当時の疫学調査票、平成20年度に国が実施したカネミ油症患者健康実態調査票、過去の油症検診記録、及び平成21年度の県独自の健康実態調査等を基に整理した油症名簿(※3)に記載のある方々のうち、未認定者の所在や健康状態等を調査。

3. 調査の対象

油症名簿のうち以下の全てを満たす対象者 158人

- (1) 氏名を把握している方
- (2) 未認定者
- (3) 存命の方、又は存否不明の方
- (4) 事件当時、生まれていた方(1世)
- (5) 県内在住かつ送付先が分かる方
- (6) カネミ油症に関する文書等を拒否されていない方
- (7) 五島市への事前存否確認で生存又は不明

4. 調査期間

令和5年12月1日～26日

5. 調査結果

(1) 調査結果概要

①調査対象者数	158人
②回答数(回収率:32.9%)	52人
③宛先不明により配達できなかった数	9人(転出1、住所変更4、死亡2、不明2)
④死亡	2人
⑤返信なし	95人

(2) 受診勧奨について

- ①これまで未受診であるがR 6 受診勧奨を希望された方：3名
- ②所在の確認により受診勧奨が可能となった方：4名

(3) 自覚症状について

- ①認定者については、令和5年度に検診を受診した本県在住の124名の受診内容を集計
 - ②未認定者については、「健康実態調査票」により自覚症状についての回答があった52名のうち症状の記載がなかった2名を除く50名及び令和5年度に検診を受診した方から調査票回答者との重複や次世代を除いた7名の受診内容を加えた計57名分を集計
 - ③自覚症状の有無
 - 自覚症状なし (認定者 4.8%、未認定者 12.3%)
 - 自覚症状あり (認定者 95.2%、未認定者 87.7%)
- 主な自覚症状
- ・全身のだるさ (認定者 72.6%、未認定者 56.1%)
 - ・しびれ感 (認定者 69.4%、未認定者 59.6%)
 - ・関節痛 (認定者 71.0%、未認定者 64.9%)

6. 調査結果の利用と今後の対応

- ①調査結果に基づき油症名簿上の「存否」や「住所」等の情報を更新し、所在等が確認できた未認定者（生存者）に令和6年度油症検診を勧奨する。
- ②調査結果について国へ提供し、平成21年の調査結果と同様、55年以上が経過した現在もなお内科的疾患等の自覚症状を有する多くの未認定者が存在することが改めて確認されたことから、カネミ油症がより総合的な判断に基づいて認定されるよう研究・検討を重ねていただくよう求める。

(※1) 油症検診：毎年1回、五島市玉之浦町、同市奈留町、同市福江、長崎市で実施。

(※2) カネミ油食中毒事件：

昭和43年、カネミ倉庫(株)（北九州市）が製造した米ぬか油を原因食品とする食中毒事件で、西日本一帯を中心に発生し、吹き出物、色素沈着等多岐にわたる症状を呈した。

(※3) 油症名簿：油症関係者（油症検診受診者、カネミ油の喫食歴について県に届け出た方等）の氏名、年齢、性別、住所、カネミ油の喫食時期、認定・未認定の別、認定時期等を取りまとめた一覧